

歴史をつなぐ

人をつなぐ

旧気仙郡における被災史料保全活動

挨拶 蝦名 裕一（東北大学災害科学国際研究所准教授）

報告①奥村 弘

（神戸大学大学院人文学研究科教授／歴史資料ネットワーク代表）

「東日本大震災と史料保全ネットワーク」

報告②金野 聡子（紙本・書籍保存修復）

「大船渡市の被災した個人所蔵資料救済処置」

報告③大林 賢太郎（京都造形芸術大学歴史遺産学科教授）

「京都造形芸術大学における被災史料の保存処置と修復」

報告④小野塚 航一・加藤 明恵（神戸大学大学院人文学研究科）

「佐々木家資料クリーニング作業の経過と今後の展望」

報告⑤川内 淳史（神戸大学大学院人文学研究科特命講師）

「大船渡市湾開発と地域社会―被災史料からみる大船渡の近代―」

報告⑥熊谷 誠（三陸ジオパーク推進協議会推進員）

「唐丹村文書の保全活動と昭和三陸地震津波」

報告⑦佐々木 啓（茨城大学人文学部准教授）

「唐丹村文書から何がわかるのか―兵事史料を中心に―」

<パネルディスカッション>「被災史料保全と歴史研究」

日時：3月4日（土）13：00～16：30

会場：大船渡市魚市場多目的ホール

入場無料／事前申込不要

問い合わせ：東北大学災害科学国際研究所
災害文化研究分野（担当者：蝦名）
TEL 022-752-2146 (mail) ebin@irides.tohoku.ac.jp



主催：東北大学災害科学国際研究所 共同研究助成「岩手県沿岸部における災害史料の整理・アーカイブと実用研究」研究グループ
共催：歴史資料ネットワーク／NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク／三陸ジオパーク推進協議会
／科学研究費補助金基礎研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立―東日本大震災を踏まえて」研究グループ
／防災・減災が都市レジリエンスの構築「記憶継承による災害文化形成に向けた文理融合研究―災害史料を活用して―」研究グループ